

日本国際看護学会 2018年度 西日本研修会報告

開催日：平成31年2月17日（日）13:00～16:30

会場：京都光華女子大学 太子堂

テーマ：「看護学教育モデルコアカリキュラムから看護師の国際的視点をどう育てるか？」

講師：姫路大学看護学部 教授 安達和美 先生

平成31年2月17日（日）京都光華女子大学 太子堂で、講師に姫路大学の教授 安達和美先生を迎え、「看護学教育モデルコアカリキュラムから看護師の国際的視点をどう育てるか？」に関する研修会が開催されました。1部の安達先生の講演で、2部では講演を踏まえて、参加者の皆様に「看護学教育モデルコアカリキュラムから看護師の国際的視点をどう育てるか？」について考えました。講演では、看護学教育モデルコアカリキュラムについて説明され、国際看護の過去から現在に至るまでの内容について言及されました。コアカリキュラムで、どのような教育が必要なのか、講師の先生の経験をまじえながら教授されました。Ⅱ部のグループワークでは、講師の先生の学びの共有とコアカリキュラムについて話しあいました。グループワークでは、参加者自身の国際看護学への考えや、日頃の悩み、などを共有する機会となりました。アンケートの結果から、理解度「よく理解できた（15.4%）」、「理解できた（46.15%）」でした。難易度については、約70%が「まあまあ難しい」「難しい」と回答しており、その理由は講義内容が専門的であったためだと思われます。

研修会の様子

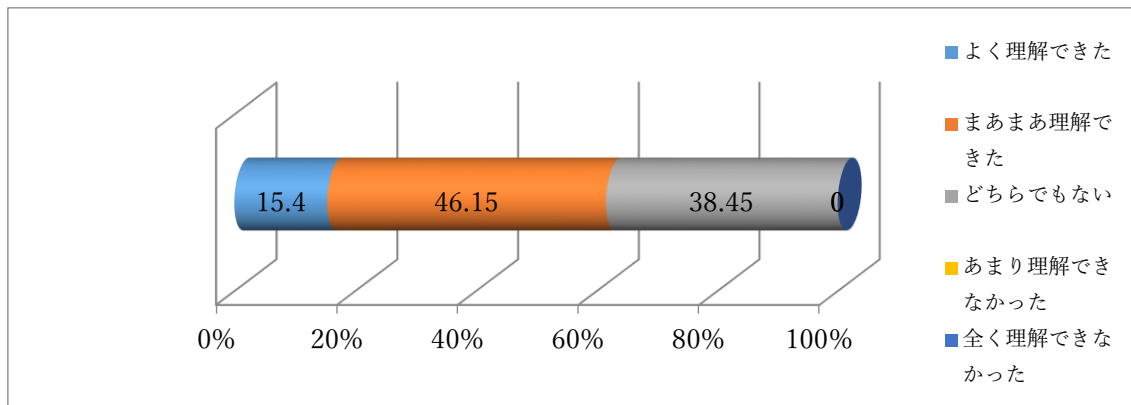




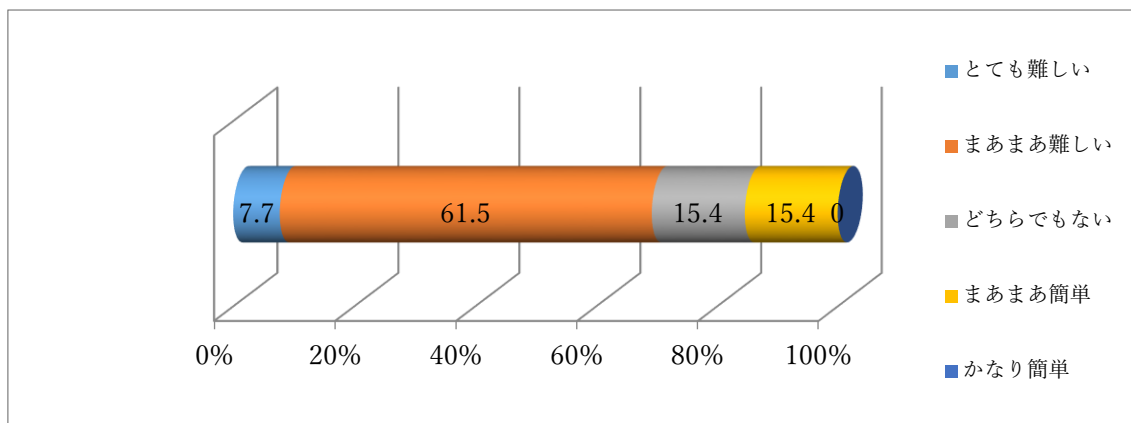
アンケート結果について

1. 内容について

①講義内容について理解できましたか



②難易度はいかがでしたか？



③一番印象に残った内容は何ですか

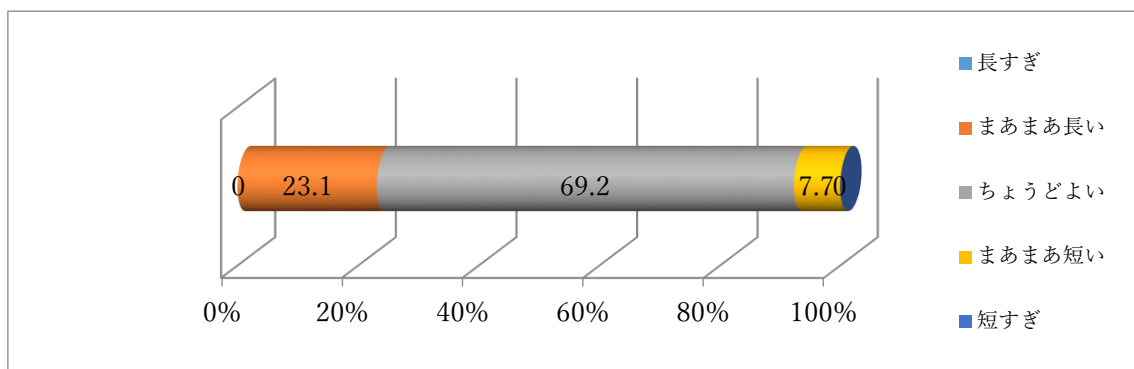
- ・ 先生のご経験の数々（教育・実践）
- ・ 異文化に繋がる文化の理解が大切
- ・ 国際看護は独立したものではなく、看護の基礎（人の理解・生活の理解）であり、あらゆる科目、看護学と結び付けることが必要だということ
- ・ A 区のグループホーム、訪看所のお話し
- ・ グループワークで他の人に意見を聞いたこと
- ・ 国際看護学教育は国境なし看護、コミュニケーション力が必要だと勉強になりました。
- ・ 実習場所に国際的な内容で学んでいる所がとても素晴らしいと思いました。教育者も広く学んでいかなければ学生指導はできないと感じました。
- ・ 日本の国際活動、国際協の歴史について

④参加する前と参加した後ではあなた自身どのような変化がありましたか。

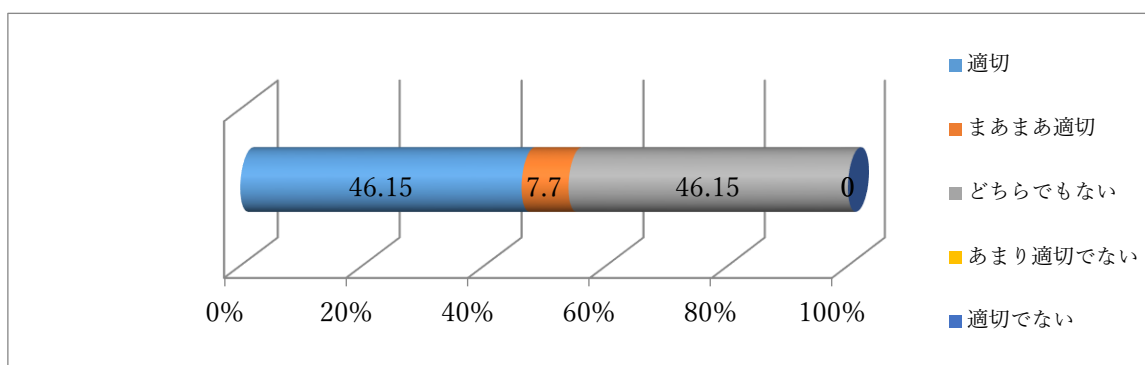
- ・ どのように問題を組み立てたらよいか明確になった。
- ・ 国際看護のカリキュラム内容を深く考えられるようになった。
- ・ 国際看護に対する関心が強くなりました。異文化とは何かを考えていきたいと思います。
- ・ 視野が広がった
- ・ より広国際看護を学ぶことが出来た。
- ・ 国際看護担当するものとして自身ができた。教育の中で、マイノリティ分野だけに周囲にわかってもらいにくい領域のため
- ・ 学生・新人を理解する時に今日の異文化理解を参考にしたい。
- ・ 多文化を生で感じていますが他国へ実際に行き学びたいと強く思いました。
- ・ 次年度から統合分野の中の国際看護を担当になったため、今日の講義で自分の意識を変えていくこと。

2. 進め方について

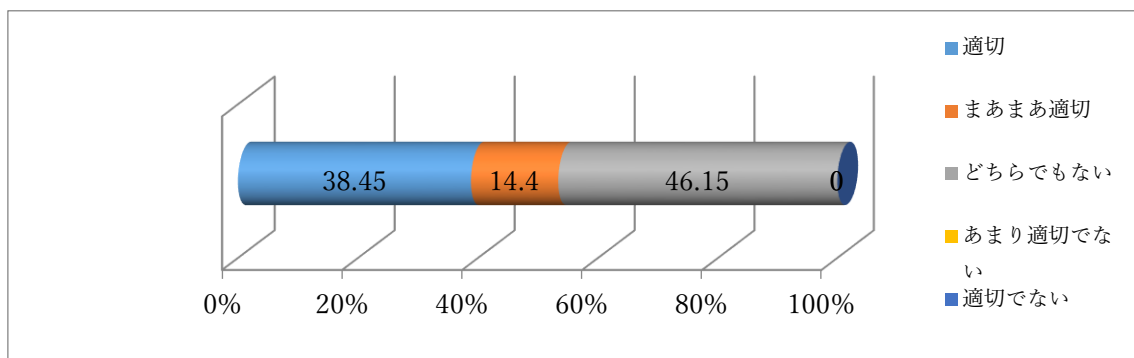
①内容に対しての総時間は適切でしたか？



②開催日時は適切でしたか？



③開催場所は適切でしたか？



④進め方に関して、その他ご意見がありましたら記述ください。

- ・ 教育者の背景や質問事項が知りたかった。
- ・ グループワークでは4名で楽しくたくさん話ができて良かったです。

3. 実務での活用等について

①研修会を受講し、今後どのような行動を取られますか。

- ・ 自身の講義に役立ってます。
- ・ カリキュラム内容を検討する。
- ・ 海外研修・国際看護の強化目的の構築に役立てたい。
- ・ もう一度授業内容を総点検する。
- ・ 自分にも、これからの教育場に行っても、どのようなことを学生が学ばれるかを考えさせられた。
- ・ 国際協力隊について良く調べて学んでいこうと思いました。

②現在、国際看護実践・研究であなた自身が悩まれていることは何ですか。

- ・ どれだけ興味関心を持ってもらえるか
- ・ 海外研修の企画・立案とカリキュラムの関連付け
- ・ 職場に（上層部）理解がない。”国際看護”はマイノリティの位置づけだけになっている。なので、制度的（システム）に看護教育カリキュラムに国看を絶対に入れなければならない状況が欲しい。※必須科目にはならない
- ・ 教育に携わっておりますが、4年程前より選択科目で国際看護を開講しています。学生には国内思考の学生も多く、そのような対象にどう響く内容を伝えるか工夫について考えています。

4. その他

①今後開催してほしい研修内容等のご要望はありますか。

- ・ 実践例の紹介（教育）
- ・ 情報交換の場としてほし